シェイクハンド

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

第46号
H28.1

なやみは半分、よろこび倍増
さあ　みんなで手をつなごう!!

賀正

新年のご挨拶

一般社団法人
静岡県訪問看護ステーション協議会
会長　望　月　律　子

新年あけましておめでとうございます。
会員の皆様には、地域に根差した活動を惜しみなく展開しながら、年末年始もなくお過ごしの方もあるかと思います。
少子超高齢社会に生きる地域の人々の支えは、訪問看護師の質と量です。
「訪問看護アクションプラン２０２５」を実効性あるものにする為の努力を、会員皆様と共に進めていきたいと思います。
本年もよろしくお願いいたします。

副会長　岡　慎一郎

新年のご挨拶を申し上げます。2025年まで残り10年を切り、医療制度改革と地域包括ケアシステムの取り組みが始まっています。今年も、医療・介護ニーズのある中で在宅療養を行っている方々を支えるために、皆様とともに取り組みたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

副会長　上　野　桂　子

新年明けましておめでとうございます。当協議会も一般社団化し3年目を迎えます。
2025年を目前にし、ますます訪問看護の必要性とその役割・力量が問われてきています。とはいえ現場は人手不足です。が、あそこのステーションで働きたい！と思われるようなマグネットステーションを目指し、行政、他機関、多職種と連携強化し、県民が安心して療養生活が送れるようそのニーズに応えていきましょう。今年もよろしくお願いいたします。

在宅ケア普及啓発　樋口恵子氏講演会

まごころ訪問看護ステーション　森　洋子

テ ー マ：「最期まで自分らしく生きるために
～自分で決める人生の終い方～」
講　　師：東京家政大学名誉教授
NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」
理事長　　樋口恵子氏
開催日時：平成27年9月5日㈯　13時30分～15時30分
会　　場：あざれあ　大ホール
参 加 者：178名

９月５日、静岡県男女共同参画センターあざれあ大ホールにて、高齢社会問題や働く女性について取り組んでこられた東京家政大学名誉教授、ＮＰＯ法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長の樋口恵子さんの講演が開催されました。ご自身の介護体験や活動を通して考えてこられた「自分らしい生き方・人生の終い方」をお話ししてくださいました。会場には中高年の女性を中心に178名の方々がお越しくださり、笑いと涙あふれる２時間となりました。

樋口さんは働き盛り、子育て期であった頃にお母様の介護を経験され、仕事と子育て、そして介護の三足のわらじの日々を過ごされたとのこと。働く女性の退職は子育てだけがきっかけになるのではなく、突然訪れる肉親の闘病、介護がきっかけとなることもあり、女性のライフプラン構築の難しさを切々と語って下さいました。

ご主人の闘病と終末期のあり方についても赤裸々にお話しくださいました。ご主人は大学教授、ジャーナリストであった方。大学で教鞭をとり、学生から慕われていたご主人は、学生に「先生」と呼ばれることに慣れ親しんでいたため、入院先でも看護師から「先生」と呼ばれることで、自分のアイデンティティを保つことができていたようだとのこと。笑顔で看護師に対応するご主人のご様子を、樋口さんも微笑ましくご覧になっていたようです。また、ご主人の考えは「プロダクティブな能力・場を失ってしまったら生きているとは言えない。プロダクティブでなければ生きていたくないのさ」というもの。この言葉に、樋口さんはご主人の「人生観と死生観」を感じ取ったそうです。そして、ご主人が延命治療を望まず療養生活を送り、生涯を閉じて10年が経った今、「本当のあなたの気持ちはどうだったの？」と考えることがあるとのこと。そして、生きる意味とは、死生観とは…と深く考えさせられると仰られました。そのご経験から、自分の意志は書面に残しておいたほうが、自分自身の為にも、残された人達の為にも大切なことであると感じられたそうです。自分が死に直面した時に、自分の残りの人生をどう生きたいのか、そしてどう死んでいきたいのか…この問い掛けはどの世代にも通じる、生きている全ての者に必要とされる考え方だと思います。人は死ぬ瞬間まで生きています。その生きる日々をどのように過ごしたいのか、またどうすれば自分らしい生き方、自分らしい人生と言えるのかを、今回のご講演で改めて投げかけられたように思います。樋口さんの温かい笑顔と、朗々たる人生論の語りにハッとしながらも、笑顔で人生を思い返す時間をいただきました。

平成27年度ケアマネジャー在宅医療研修報告

（平成27年7月より10月にかけて、東部・中部・西部三会場にてそれぞれ実習を含む3日間開催）

ケアマネジャーの在宅医療研修に関わって

大村早苗

今年度、新たな取り組みとして始まった「ケアマネジャー在宅医療研修」は、在宅療養における訪問看護の実際をとおして、訪問看護の効果的な活用について学び、在宅療養者へのサービスの充実や訪問看護との連携強化を図る事を目的に３日間（各半日）実施されました。

１日目は、在宅に熱心な開業医の先生と訪問看護ステーションの管理者よりそれぞれ「在宅医療の実際」と「訪問看護の理解について」と題して講義をして頂きました。

医師からは、医師からみた在宅医療の現状と課題、ケアマネジャーに求めること。訪問看護からは、訪問看護師からみた在宅医療の現状と課題、訪問看護の活用方法、ケアマネジャーに求めることという内容でお話して

頂きました。

２日目は、各地域の訪問看護ステーションに行き、訪問看護について理解を深めて頂くために同行訪問実習を行いました。

３日目は、講義と実習の振り返りとしてグループワークを行いました。

各自で①訪問看護ステーションでの実習をとおして、気づいたこと、学んだこと、今後に生かせそうなことと②日頃、訪問看護を利用する際に困っていることを記入して頂き、グループ内で個人の学びを共有し『訪問看護導入のタイミング』というテーマで「これまでの経験の振り返り」、「ヘルパーと看護師の使い分け」、「これまでの訪問看護導入のきっかけ」、「今回の研修での学び」をグループ内でディスカッションし、今後のケアプラン作成時の訪問看護導入について意見交換をしました。各グループに、支部の役員の方に１名ずつコーディネーターとして参加して頂きました。

講義では、各地域の在宅医療に力を入れている先生方のわかりやすく楽しい講義を聞く事ができ、先生方の本音や在宅医療、地域包括ケアへの理解が深まったようです。往診と訪問診療の違いや連携の大切さ、主治医との連携の取り方の工夫を学んで頂けました。

訪問看護の講義では、予防の段階から訪問看護を導入できる事を知らなかったケアマネジャーさんも多く、月１回の導入で病状の安定した状態を保ちながら重度化を防ぎ安定した療養生活を目指す事にも役立つ事を理解して頂きました。早めの導入や相談を意識して頂けたので、受ける側のステーションの意識も統一していかなければならないと思いました。

訪問看護については、講義後の実習を通して理解がさらに深まりました。ケアマネジャーさんの中には、自分の利用者が訪問看護を利用する際に同席する時とは違った視点で訪問看護を理解する事ができた、非常に親しみが持てる気持ちになった等々、ここには書ききれませんが実習はとても好評でした。お忙しい中、実習を受け入れて頂いた訪問看護ステーションの管理者・スタッフの皆様ありがとうございました。

ケアマネジャーとしての経験年数は数ヶ月から数十年

と様々でしたが、講義と実習を通して学んだ事をグループワークで共有する事で学びが深まったのではないかと感じました。顔の見える関係作りが連携しやすい環境を作っていくのだと思います。訪問看護ステーションで働く看護師は、気軽に相談でき親しみや信頼をもってもらえる地域の担い手の一人として、利用者や家族の気持ちに寄り添いケアが提供できるように多職種の役割を理解し連携・協働していくことの大切さを改めて感じました。多職種に理解を求めるだけでなく、訪問看護師も多職種の理解をしていくことが大切だと思いました。

「訪問看護師さんは怖い」「訪問看護は敷居が高い」という印象も、研修に参加して下さったケアマネジャーさんは身近に感じるようになったり良き相談相手として捉えてもらえるようになったようです。

全体を通して、来年も参加したい、今後も継続して欲しいなどの意見も聞かれました。今年度は64名の参加をいただきました。来年度はさらに多くのケアマネジャーさんに研修に参加し、ステーションに実習に来て頂けるように声をかけて頂けたらと思います。宜しくお願い致します。

ケアマネジャー在宅医療研修に参加して

訪問看護ステーション一休　**大 村 純 子**

ケアマネジャー在宅医療研修の訪問看護ステーション《実習成果のまとめ》のグループワークに参加しました。１グループが５名位で、それぞれのグループに協議会の鈴木氏と３ステーションの所長がアドバイザーとして加わりました。

参加された方からは訪問の同行を通してケアの工夫や仕事の丁寧さを感じていただけたとのことでした。

いままで訪問看護に対して敷居が高いイメージを持っていたり、どういうことを依頼していいのかわからなかったという方もいらっしゃいました。また、訪問看護は介護より単位が高いから使いづらいとの声もありました。私たちは問題意識をもってアセスメントし看護しているということを周知し、訪問看護の門戸を広げる為に次年度もこの研修は継続し、さらに多くの参加を呼びかける必要があると感じました。

ステーション紹介

東部　福老訪問看護ステーション

丸山　修子

僻地？写真の背景のような豊かな自然の中、南伊豆町唯一の「福老訪問看護ステーション」です。鳥のふくろうに掛けています。4名の有志で開設して7年目に入りました。事務所は小さいですが敷地は広く、ご近所の皆様が時折「車置かせてください」とアットホームな環境の中で訪問看護としても最近ようやく地域に信頼され、必要とされる事業所になってきたかなと思うこのごろです。365日24時間の訪問を掲げて日々奮闘中です。介護事業、医療との連携により、寿命での死を受け止めて在宅で最期まで過ごしたい、という方は増えていると感じます。とは言え、「受け入れる覚悟」は揺れます。最近、年齢だからというものではないなと教えられる事がありました。100歳を超えて体調が悪化され不安になられていました。「家に居たい」との思いに寄り添い、訪問スタッフを増員し緊急体制をとりました。ご家族より「すぐに電話に出てもらい“伺いますよ”の声にほっとします。」の言葉がなにより私たちの原動力です。少ない人数ですので行き届かない点は多いと思いますが、訪問利用終了された後にも「良かった、また電話に出てくれて、家に寄ってください。あの頃は必死で。」お誘いをいただくとこちらがほっこり嬉しい気持ちをいただきます。緩和ケアを選択されてご自宅で過ごされる方も多くなりました。もちろんお元気になられて訪問看護を卒業されるかたもおられます。できる限り“幸せな人生”と思っていただけるように、孤独にならず支え続けることができるよう微力ながらこの地で頑張っていきます。これからもよろしくお願いいたします。

次は伊豆高原訪問看護ステーションさんです。

中部　さくらんぼ訪問看護ステーション

松岡　有子

清水区の「さくらんぼ訪問看護ステーション」です。平成25年４月に開設となり、３年目となります。現在、常勤看護師２名、非常勤看護師３名で力を合わせて活動しています。

平成26年12月に母体である株式会社くらしサポートがデイサービスを開設したのを機に、当事業所も駒越に引越しをし、現在は居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、訪問看護ステーション、デイサービスが併設された事業所となりました。富士山と海がきれいなとってものどかな環境ですが、ちょっぴりハエが多いです。

訪問看護がただ大好きで、これまで無我夢中で駆け抜けてきました。いろいろ悩むこともありましたが、近隣の所長さん方やステーション協議会にも相談させていただきながら、訪問看護が大好きな仲間に恵まれなんとかこれまで頑張ってこれました。

さくらんぼ訪問看護ステーションは

１．私たちは、あたたかい看護をめざします。
２．一緒に泣いて笑って、あなたらしく生きるお手伝いができたらと考えています。
３．あなたの思いや希望に耳を傾けます。
４．迷うとき、悩むときは一緒に考えます。
５．そんなパートナーになれたらと考えています。

これが、開設当初から変わらない私たちの理念です。みんなそれぞれ思いはあっても、ここがブレなければ大丈夫だと思っています。

それぞれの利用者さんの思いに寄り添おうとすればするほど、これで本当に寄り添えているのかわからなくなってしまうこともありますが、ご縁があった利用者さんに私たちができること、みんなで精一杯考え看護させていただいています。

そして何より利用者さんやそのご家族に私たちのほうが逆に力をもらい、励まされているんだなと日々感じ、感謝しています。

次は、訪問看護ステーションフォレスタ藤枝さんです。

西部　訪問看護ステーション住吉第二

野中　みぎわ

こんにちは。

浜松市の訪問看護ステーション住吉第二です。浜松市東区方面にお住いの方の在宅療養をお手伝いする目的で3年前に訪問看護ステーション住吉から暖簾分け？した、看護師６名（うち２名助産師）、理学療法士１名、事務職員１名の小規模事業所です。

事業所は聖隷浜松病院北側に立つ天使の風向計のついた建物の２階にあり、１階にはひばり保育園、２階にはデイサービスセンター住吉が併設されています。デイの利用者さんや保育園児たちの「いってらっしゃーい！」、「おかえりなさーい！」に励まされ、癒されながら働く毎日です。

当事業所は、どのような利用者さんにも随時対応すること、利用者さんとご家族に寄り添い、安心して生活していただけるためのケアやリハビリを提供することを大切にしています。特に小児の訪問看護では、利用者さんだけでなく兄弟・姉妹の成長発達と親御さんのＱＯＬ向上を視野に入れて、積極的に浜松市難病患者等介護家族リフレッシュ事業に協力しています。

お陰様で最近は小児や医療依存度の高い利用者さんが多く利用して下さるようになりました。知識も技術も体力も今まで以上に求められるので、ため息が出そうになるのですが、そんな時はメンバーの中から「利用者のために一致団結して頑張ろうよ」「仕事を楽しもう」と声が出ます。だからと言って、休みも取らずに働いているわけではありませんよ。取りたい休みは取れるようにお互い協力もし合います。いきいきと仕事もプライベートも充実できる…。訪問看護ステーション住吉第二はそんな職場です。

次は訪問看護ステーション遠州上島さんです。

平成26年度　新任訪問看護師育成研修　実施報告　その2

「新任訪問看護師研修」終了レポート【3】

研修日：平成27年2月18日～20日

訪問看護ステーションに勤務し9ヶ月になる。産婦人科病棟に勤務後11年のブランクを経てデイサービス勤務を経験した。デイサービスに勤めていた頃、利用者様は心配事があるとすぐに訪問看護師に相談しとても信頼している様子だった。そんな姿をみて私も訪問看護師になりたいと思うようになった。実際に働き始めると在宅における看護師の役割や他職種との連携の取り方など戸惑うことが多かった。看護技術に関しても、経験の少なさから忘れていることが多く自分の知識や技術のなさを痛感した。そこで今回、看護の知識と技術を深め今後の訪問に活かしたいと新任訪問看護師研修に応募した。

3日間の研修で10件の訪問同行・サービス担当者会議・グループホーム訪問など多くの経験ができた。訪問同行では技術はもちろん在宅ならではの工夫をみることができ、今後の訪問ですぐに活かせるものばかりだった。例えば点滴スタンドの替わりにハンガーを使用したり、ベッド臥床時の洗髪では紙おむつやパッドを用いる方法を学んだ。家庭にあるもので代用することで利用者様やご家族の経済的な負担を軽減することにもつながっており病院や施設と大きく違うところだと感じた。

サービス担当者会議ではケアマネジャーを中心に話し合いが進められ、はじめに利用者様の情報の共有が行われた。次にご家族が日常生活で疑問に思っていることを質問しそれぞれの視点からアドバイスを行っていた。情報の共有を速やかに行うことができ意見を出し合うことで問題の早期解決につながっていた。

グループホームは病院や施設と違い、家庭的で自分の家にいるような穏やかな雰囲気であった。ヘルパーから報告を受けた後、バイタル測定・状態観察を行う。無理強いせず利用者様のペースで話しかけるうちに始めは無表情だった利用者様にも笑顔がみられた。最後にヘルパーからの相談にのり日常生活の具体的なアドバイスを行っていた。訪問看護師が月3回、医師が月1回訪問しており利用者様の体調管理になくてはならない存在だと感じた。

実習の目標であった看護技術に関しては概ね達成できたと思う。はじめは手技を見学し習得することを主な目標にしていたが、手技だけでなくケアの工夫や利用者様・ご家族と訪問看護スタッフとの間にある絆も感じることができ目標以上に得るものがあった。他職種との連携に関してもサービス担当者会議とグループホーム訪問によりケアマネジャーやヘルパーとの関わりが具体的にイメージできるようになり情報共有の大切さを知ることができた。

今回の実習で、これまでの9ヶ月間無我夢中でやってきた訪問看護について改めて振り返ることができた。今までは教わったことを忠実に実施することに気を取られ、自分で考え工夫することや他職種との連携まで考えが及ばなかったが、自施設以外のステーションで実習することで気づくことができた。訪問看護は利用者様やご家族と深く信頼関係を築くことのできる素晴らしい仕事だと思う。利用者様に教えていただいたり元気をもらっていることが多くあり、思いきって訪問看護師になって本当によかったと感じている。これからも「訪問看護師になりたい」と思った初心を忘れず、真摯に学び利用者様と向き合っていきたいと思う。

「新任訪問看護師研修」終了レポート【4】

研修日：平成27年2月17・19日

今回、静岡市内でも規模の大きい訪問看護ステーションでの研修を希望した理由として、

①現在勤務している地域以外のステーションで実習させていただくことで、地域ごとのさまざまな特色を体験したい

②今後、現在勤務している訪問看護ステーションが機能強化型ステーションとなっていくに当たり、スタッフとしてどのような点に配慮することが必要か知りたい

③大きな規模のステーションならではの特色が知りたい

以上、大きく3つの目的を持って研修に参加した。

機能強化型Ⅰの訪問看護ステーションということもあり、スタッフの人数や利用者数の規模など、現在勤務しているステーションと圧倒的な差があったため、どこまで研修内容を今後に活かせるか不安に感じた初日だった。しかし、患者様との信頼関係の構築、専門性・個別性を重視したケアの実施、ご家族への気遣いなど、事業所の規模や地域が変わろうとも同じであると言うことを再確認することができた。

訪問した患者様の基礎疾患については、私自身初めて見る疾患ばかりだった。近くに大病院があるからこそ、そういった患者様が多くなるのかと感じた。また、当方の地域なら通院や往診医がどこまで対応できるか、急変時などどのように対応するかなど考えるきっかけとなった。

事業所の規模の差は大きく違ったが、エリア別にチームを組み、情報共有やシフトの調整などを行うことで、規模が大きくなっても行っている内容は同じだということを説明して戴けた。患者様やスタッフなど関わる人数が多くなればなるほど、情報の共有や統一、看護技術の統一などが困難になりがちだが、月2回のミーティングと研修を行い、同行訪問を何度も行うことで、「一人で訪問する」不安を軽減し、看護の質を高く保ち続けることができていると感じた。実際、私自身も「一人で訪問する」事に対して不安を感じていたが、何度も先輩看護師と同行訪問をし、わからないところなどはミーティングや勉強会を通して学習・確認していくことで、訪問に対しての不安や疑問が減り、安心して訪問することができている。事業所が変わっても、スタッフを思いやる気持ちやそのために必要な体制は変わらないということを実感した。

大きな規模のステーションの特色という点については、「ステーションの強み」として紹介していただいた中で、さまざまな資格や研修を受けている方々が多く驚いた。その方々が介護者や地域の方々との交流を持つことで、ステーション内のスタッフの研修に繋がり、さらに地域住民等への情報提供や相談をしやすい新しい関係作りにも繋がっていくのだと感じた。

これからの在宅医療は、患者・介護者様とのつながりだけでなく、地域や福祉などさまざまな人とのつながりが重要視されている。目の前の患者様を看ながら、さらに新しい知識と経験をつんでいけるよう、日々意欲的に学んでいきたい。

訪問看護ステーション協議会東海北陸ブロック交流会に参加して

訪問看護ステーションなかいず　石井由美

10月24～25日、今年で五回目になる東海北陸ブロック交流会に参加しました。今年の開催担当は富山県、開業から間もなくの北陸新幹線できときと富山に行ってきました。

「きときと」は新鮮な、生き生きした、活き活きした、とか、取れたて、等の活きのいい状態をいいます。

今が盛りの静岡県からは望月会長、事務局から鈴木惠子さん、大村早苗さん、各支部からは松平泉さん、下田智世さん、多田みゆきさん、野中美保子さん、石井の計８名が参加しました。開会の挨拶には富山県連絡協議会会長と県看護協会会長、県厚生部高齢福祉課課長補佐の３名がご臨席され、在宅医療の充実を鑑み、この会が年々重要な意見交換と発信の場になっていると感じました。

研修会は、全国訪問看護事業協会の事務局長、宮崎和加子氏の講義、「アクションプラン２０２５」でした。内容は①地域包括ケアの課題②報酬改定からみえる今後の課題③日本の訪問看護の現状と課題④訪問看護アクションプラン2025⑤地域包括ケア推進における訪問看護の多様化とその取り組み、でした。地域包括ケアの課題には重度者対策・地域づくり・認知症対策があるが、重度化対策の部分はステーションにしかできない、しっかりやるようにと話がありました。50分の持ち時間は当然オーバーし、盛り沢山の情報と降り注ぐエールをいただきました。地域包括ケア推進の要である訪問看護が、在宅で療養する人の立場で、多職種とともに介護サービス、生活支援サービスを一体として届けられる仕組みづくりに向かって努力する必要があります。訪問看護アクションプラン２０２５の冊子を熟読し、会員が同じ方向を向いていく時だと思いました。配信された自己評価システムにも皆さんぜひ全員参加してください。

その後の交流会では、きときとな海の幸をいただきながら各自情報交換に花を咲かせ、７つの参加県から活動報告がありました。昨年度の静岡県の報告を受けて岐阜県でも一般社団法人化されたなど、各県で活動が活発になってきています。夜は客室の垣根を越えておのおの集まり、情報交換に花が咲きました。今年度さらに充実した静岡県の事業に皆さん関心が高く、鈴木さんの周りはいつも人だかりでした。

眼前に広がる富山湾の向こうには立山連峰、新鮮な海の幸をいただいてホッと癒され、頭もお腹も満たされた二日間でした。来年は三重県で開催されます。皆さん是非ご参加ください。

事務局より

あけましておめでとうございます。
今年は下記の研修が予定されています。多くの方のご参加をお待ちしております。

研修会のお知らせ

◇認知症訪問看護研修（2日間）　※中部・西部は終了しました　受講料／無料

東部	日　時	会　場	テ　ー　マ	講　　師
1日目	1月16日（土） 9：30～16：30	プラサヴェルデ 401会議室	「総論」「他職種から見る認知症ケアの現状と課題」	国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部部長　川越雅弘 氏　他
2日目	1月17日（日） 9：30～16：30		「認知症の当事者の話」 「地域に学ぶ」	医療ソーシャルワーカー　社会福祉士 猿渡進平 氏　他

◇在宅ターミナルケア研修（3日間）　※東部は終了、中部・西部の1日目は終了しました　受講料／無料

中部	日　時	会　場	テ　ー　マ	講　　師
2日目	1月9日（土） 9：30～16：30	シズウェル 601研修室	「終末期のコミュニケーション」 「死後のケア」	茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター看護局長 がん専門看護師　角田直枝 氏
3日目	1月16日（土） 9：30～16：30		「がんとリハビリテーション」 「終末期ケアと緩和ケア」	静岡県立静岡がんセンター　増田芳之 氏 静岡大学大学院農学研究科教授　竹之内裕文 氏

西部	日　時	会　場	テ　ー　マ	講　　師
2日目	1月23日（土） 9：30～16：30	なゆた浜北 第二会議室	「症状コントロール　がん疼痛治療剤」「症状別ケア」	浜松医療センター　緩和ケア認定看護師 吉川陽子 氏
3日目	2月13日（土） 9：30～16：30		「がんとリハビリテーション」 「終末期ケアと緩和ケア」	聖隷三方原病院　理学療法士　内山郁代 氏 静岡大学大学院農学研究科教授　竹之内裕文 氏

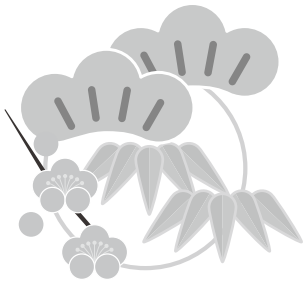
◇在宅ケア普及啓発シンポジウム

東部支部研修
会　　場／三島商工会議所（三島市一番町2－29）4階大会議室　参加費／無料
日　　時／平成28年1月30日㈯　13：15～16：30
基調講演　テーマ：「“家で最期をすごしたい”の願いをかなえるために」
講　師：熱海ゆずクリニック　院長　岩井利之 氏

西部支部研修
会　　場／地域情報センター（浜松市中区中央1丁目12－7）
日　　時／平成28年2月27日㈯　13：30～16：30
基調講演　テーマ：「医療の現状とレスパイト」
講　師：北斗わかば病院　院長　杉本昌宏 氏

◇全体研修会

日　時　平成28年3月26日㈯　14時～16時
テーマ　「平成28年度診療報酬改定について」
講　師　全国訪問看護事業協会　副会長
静岡県訪問看護ステーション協議会　副会長　上野桂子 氏
会　場　シズウェル（静岡市葵区駿府町1-70）703会議室
受講料　会員　¥1,000



編集後記

明けましておめでとうございます。
これから寒さも増々厳しい季節となります。
ノロやインフルエンザ対策は万全でしょうか。
みなさまご自身もリフレッシュし、おいしいものをたくさん食べ体調をととのえましょう。

シェイクハンドNo.46
2016年1月発行

発行所　一般社団法人 静岡県訪問看護ステーション協議会
〒420-0043
静岡市葵区川辺町二丁目4番地の13
常葉サテライトビル3階
Tel 054-275-3339
Fax 054-275-3338
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人　望月　律子
編集者　石井　由美（訪問看護ステーションなかいず）東部
大村　純子（訪問看護ステーション一休）中部
新村　礼子（訪問看護ステーション入野）西部